



新春講演会

青経塾2005年は、「デフレから緩やかなインフレへ進むが、ますます2極化が進む。西年に相応しく羽ばたき、振り落とされることなく、負け組にならないよう行動し、目標というハードルをクリアして行きましょう」という川本塾頭の挨拶で幕を開けた。

大企業の約20数パーセントが過去最高益の結果を出している。しかし、トヨタと三菱自動車の例からもわかるように一つの業界の中での2極化も進んでいる。どの業界がよくて、どの業界が悪いということではない現実があり、その大企業の繁栄の背景には、人・物・金・時間・空間・方法の全てのリストラが潜む。その矛先は容赦なく中小企業に向けられるのだと、塾主の言葉で会場に危機感が走る。

経営というもの

「元旦」とは、仏閣を訪れ祈願する時であり、経営者にとって一番辛い日のはずである。家内安全などを祈るだけではいけない。祈願とは文字通り願い求めることである。「絶対に負けんぞ!」という心意気に自分の決意と実行する想いをしっかり重ねた経営計画が必要であり、志も深く刻み、神仏と約束するのだ。更には、深く魂を込めなければならない。経営計画が絵に描いた餅になってはいけない。計画をたてたら実行する。計画通りに行かなくても決して諦めず、挑戦し続ければ心眼が宿る。その繰り返しで経営であり、経験が経営者としての差になるのだと塾主。

塾生は地上の星であるべき

『名だたるものを追って、輝くものを追って、人は氷ばかりつかむ』と、歌手・中島みゆきさんの『地上の星』の一節。25塾可児塾長の株式会社トラストが、卓上カレンダーの年間発売枚数日本一の実績をつくられた。「当たり前にあるカレンダーなんです。足元にいっぱいあるんです。これが地上の星なんです。貴方達の日本一は何ですか。理屈ばかりこね、憧ればかり追って、最後には氷ばかりつかんでいるのですよ。決心し行動し続けることにより貴方達が地上の星になるのです」と塾主の力のこもった言葉が響く。

テーマ 世界への飛躍

平成17年 1月13日 会場 / ウェスティンナゴヤキャッスル

塾主と、世界を舞台に活躍する塾生との対談

対談を終えて、「企業を本当に発展させたいと思えば、自分たちだけの社会に留まらず、人の気づかないところに行かなければならない。心に思い描いているだけでなく、行動に移すか否かである。視野を広めるからチャンスをつかめるのです」と、この3人の塾生の姿に想いを重ねられる塾主。

最後に、「未来を予測し、きちっと前進して行く事が経営者として当たり前であり、青経塾生としての使命である」と、木野村副塾頭から言葉を頂く。まさしく『挑戦』ということであり、その行動が世界への飛躍となるのである。中部国際空港セントレアの開港の今年、青経塾という滑走路から飛び立つ塾生のフライト待ちでいっぱいになるであろう。日本人としての誇りと感性、そして信念を持ち、無限の翼を広げ世界へ羽ばたくのである。

(第2青経塾 上野秀明)



白井常明氏 アサヒテック株式会社 代表取締役
(スクリーン印刷用製版製造販売)

アメリカと東南アジアの二つの舞台で活躍。電子部品業界(プリント基板、D/Pパッケージ等)及び車両ガラス業界(曇り取り熱線印刷用)に対して版の供給。

三浦玲子氏 スリーアイルクリエーション有限公司 代表取締役
(衣食住に関する企画・デザイン業務)

デザイナーとしての使命。海外と日本文化の融合を図る。通常の水の35倍の酸素を含んだウォーター(OGO Water)の輸入総代理店契約を結ぶ。

平林昭典氏 株式会社イクサム 取締役副社長
(遊技場・カラオケ・外食事業)

100店舗目指しアメリカで上場。業界に新風を巻き起こす。より楽しく、より安価なサービスの提供を目的として、パチンコ業界で「チェーンストア」の展開。